

公開実用 昭和63- 134848

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U) 昭63-134848

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)9月5日

B 60 R 1/04

K-7443-3D

F 18 B 7/00

B-7523-3J

21/00

Z-8312-3J

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 自動車用インサイドミラー

⑯ 実 願 昭62-27232

⑰ 出 願 昭62(1987)2月27日

⑱ 考 案 者 細 谷 久 夫 神奈川県伊勢原市高森台3-1-11

⑲ 出 願 人 市光工業株式会社 東京都品川区東五反田5丁目10番18号

⑳ 代 理 人 弁理士 岩倉 哲二 外1名

明 細 書

１．考案の名称

自動車用インサイドミラー

２．実用新案登録請求の範囲

ミラーを調整自在に枢支するステータ、該ステータを車体に脱落可能に付けるベースとより成る自動車用インサイドミラーにおいて、前記ステータのベース側に角柱状の突起を有する接合面を形成するとともに、前記ベースに前記突起を嵌合する嵌合孔と該嵌合孔の側部に付勢圧の調整可能な係止ピンを出役可能に配設し、前記突起を嵌合孔に嵌合した後に該係止ピンにより前記突起を圧着係止しステータをベースに対し脱落可能に取付けたことを特徴とする自動車用インサイドミラー。

３．考案の詳細な説明

《産業上の利用分野》

本考案は自動車用インサイドミラー、特に、ミラーに衝撃が加わった場合にステータがベースより脱落し、もつて運転者等の損傷を軽減するようようになした自動車用インサイドミラーに関する。

- 1 -

594

実開 63-134848

公開実用 昭和63— 134848**《従来 of 技術》**

従来、この種の自動車用インサイドミラーは、第4図乃至第6図に示すように、ミラーaを調整自在に枢支したステーbのベースc側には、ピボットdを突設した接合面eが形成されている。この接合面cに突設されたピボットdの根元には、凹溝fが形成されている。またベースcには、ピボットdを嵌合する嵌合孔gが形成されるとともにその嵌合孔gの内周壁hにピンpが出役可能に配設されている。このピンpは、ピボットdの凹溝fに圧接される突部p₁とスプリングsの当接面p₂を備えている。そして、ピンpは、ベースcの内部に形成された収納凹部i内に配設され、スプリングsによつて、突部p₁が嵌合孔g内に出るように付勢されている。

従つて、ステーbをベースcに取付ける場合には、そのピボットdを嵌合孔gに押込んでピンpを収納凹部i内に引込み、凹溝fに達した時にピンpが元の位置に押し出され、ステーbがベースcに脱落可能に取付けられる。

《 考案が解決しようとする問題点 》

しかしながら、前述した従来技術は、ステー b をベース c に脱落可能に取付けるピン d はベース c の嵌合孔 g 側からベース c に形成された収納凹部 i に収納配設する構成であるため、ピン d の配設に工数がかかり、作業性が悪くしかも、ステー b の脱落時にピン d が飛び出す恐れがあつた。又、ピン d を付勢しているスプリング s の圧力を調整することができないため、ステー b の脱落により、スプリング s の圧力が減少し、再利用出来ないという問題があつた。

《 問題点を解決するための手段 》

本考案は、上述の従来技術の問題点を解決するために、ミラーを調整自在に枢支するステータ、該ステータを車体に脱落可能に付けるベースとより成る自動車用インサイドミラーにおいて、前記ステータのベース側に角柱状の突起を有する嵌合面を形成するとともに、前記ベースに前記突起を嵌合する嵌合孔と該嵌合孔の側部に付勢圧の調整可能な係止ピンを出役可能に配設し、前記突起を嵌合

公開実用 昭和63- 134848

孔に嵌合した後に該係止ピンにより前記突起を圧着係止しステータをベースに対し脱着可能に取付けたことを特徴としている。

《作用》

ミラーを調整自在に据支したステータのベース側に設けた突起をベースの嵌合孔に嵌合させ、その後、ベースの側壁に設けられた貫通孔に配設されているピンをスクリューによつて嵌合孔内部に突出させ、嵌合孔に嵌合している突起を押圧しステータをベースに取付ける。ステータに衝撃が加わると、ピンが引込み、ステータを脱着させ、衝撃による人体の損傷を軽減する。

《実施例》

以下、本考案の一実施例を添付図面に基づいて詳細に説明する。

第1図は、本考案の自動車用インサイドミラーを示した側面図、第2図は、第1図のA-A断面図、第3図は、第2図のB-B断面図である。

本考案の自動車用インサイドミラーは、第1図に示すようにステータ1と該ステータ1の先端に調整

自在に枢支されたミラー２と前記ステー１を車体４に脱落可能に取付けるベース３とを備えている。

ステー１は、第２図、第３図に示すようにベース３側に接合面１１を形成している。この接合面１１の中央には、角柱状の突起１２が突設されている。その突起１２の側面には、一対の凹部１３が凹設されている。

同様にベース３は、板状を成し、中央に前記ステー１の突起１２の嵌合孔３１が車体４側に貫通する如く形成されている。又、ベース３には、ベース３の側部３２から嵌合孔３１の側壁３３に至る貫通孔３４が対向して設けられている。この貫通孔３４は、嵌合孔３１側に小径部３５を有している。この貫通孔３４内には、突起６１とスプリング７の当接面６２を有するピン６と、スプリング７とスクリー５とが配設されている。即ち、ピン６は、先端の突起６１を嵌合孔３１内に突出させて配設され、常時スプリング７で嵌合孔３１側に付勢されている。このスプリング７は、更に、スクリー５によつて貫通孔３４内に縮設されて

公開実用 昭和63- 134848

いる。従つて、スクリュー５の締付具合によつて、スプリング７の付勢力が調整できる。

ベース３にステー１を取付ける突起は、ピン６が容易に貫通孔３１内方向に引込む程度にスクリュー５を締付け、付勢力を調整しておいて、その嵌合孔３１内にステー１の突起１２を圧入し、接合面１１をベース３の表面に当接させる。次に、スクリュー５を締付け所望の脱着荷重までピン６の先端を突起１２の凹部１３に圧接させる。この圧接によりステー１はベース３に容易に脱着することのないように取付けられる。

ミラー１に衝撃力が加わると、ステー１は、スプリング７の付勢力に打ち勝つてベースから脱着する。

《考案の効果》

本考案は、上述した構成を有するので、ベースにステーを圧接取付けるピンおよびスプリングをベース内に外部から調整可能に組付けることができ、組付工数の低減並びに再利用が可能となり、安価な自動車用インサイドミラーを提供すること

ができる。

4. 図面の簡単な説明

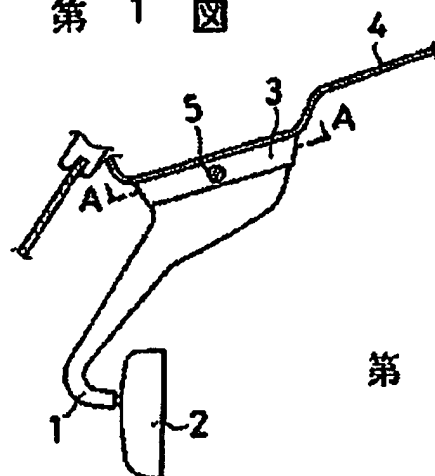
第1図乃至第3図は、本考案の自動車用インサイドミラーを示したもので、第1図は、側面図、第2図は第1図のA-A断面図、第3図に、第2図のB-B断面図、第4図乃至第6図は従来例を示したもので、第4図は側面図、第5図は部分正面図、第6図は部分裏面図である。

1…ステー、2…ミラー、3…ベース、4…車体、5…スクリュー、6…ピン、7…スプリング。

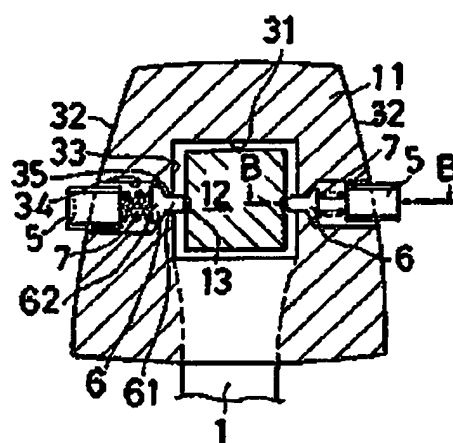
代理人 弁理士 岩倉哲二（他1名）

公開実用 昭和63- 134848

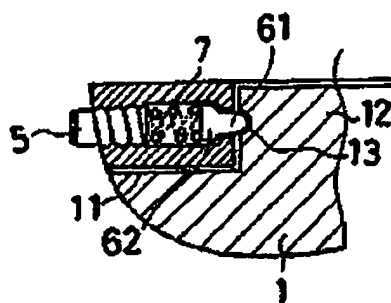
第 1 図



第 2 図



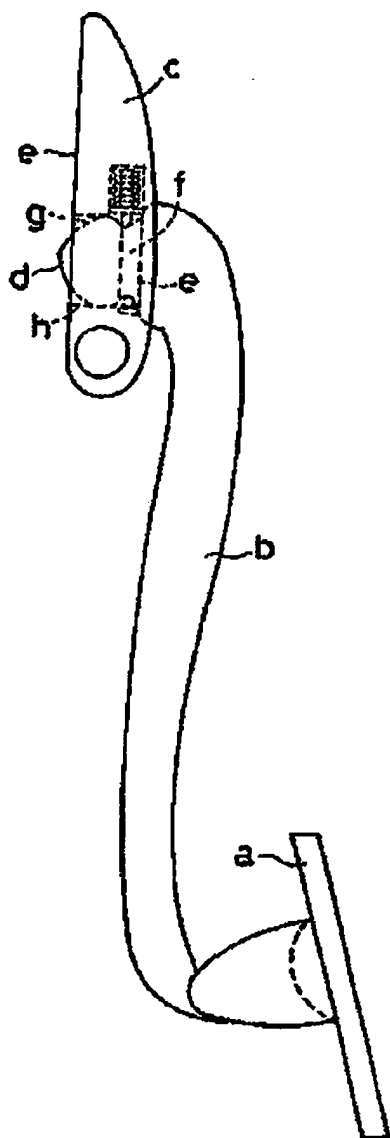
第 3 図



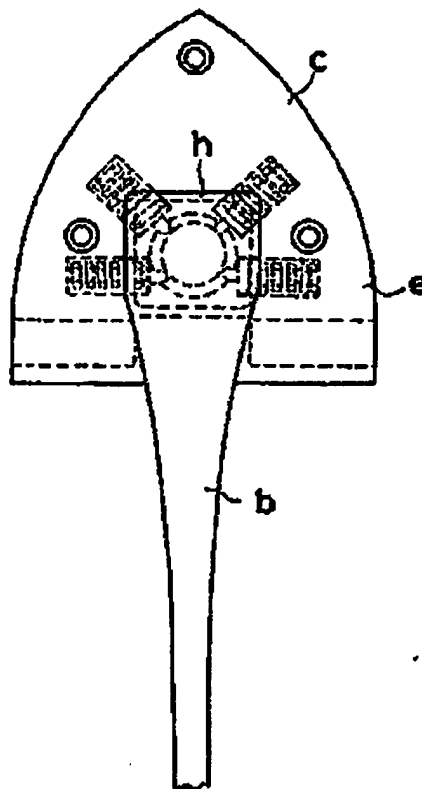
代理人弁理士岩倉哲二(他1名)

実用 63-134848

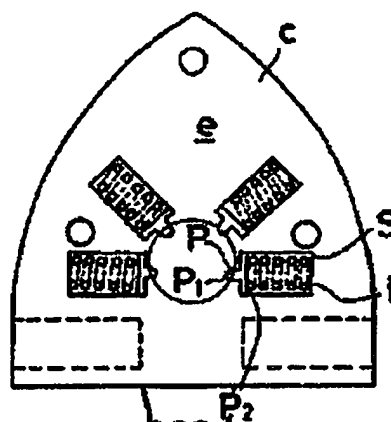
第 4 図



第 5 図



第 6 図



代理人弁理士岩倉哲二(他1名)

602

実開特許 - 134848